

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500089
法人名	社会福祉法人 キングス・ガーデン宮城
事業所名	グループホーム階上ブランチ ユニット名
所在地	宮城県気仙沼市長磯船原66
自己評価作成日	令和 元年 10月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 1年 11月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

階上ブランチでは前年度に引き続き、基本方針として「利用者の人格を尊重し常に利用者の立場に立った適切な支援を行う」ことを掲げサービスを実施しております。利用者の思いや気持ちを少しでも多く知りそして汲み取り、不安や問題点があれば解決して穏やかな生活を送っていただけるよう努めています。地域の方々のご協力をいただき地域行事の参加や学校行事の参加など交流の場を作ることができました。今年度も家族懇親会(芋煮会)の開催を予定しており、ご家族や地域の方にご参加いただけます。「気軽に外出できて気軽にお客さんが来る」このような自由でゆとりのある雰囲気の施設でありたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは気仙沼湾の入り口の、景勝地の岩井崎西部にあり、階上小学校に近い、国道45号線沿いに位置している。目標達成計画に掲げた「地域との交流」は、入居者と一緒に作った七夕飾りを持ち寄って、地域の夏祭りや学校行事に参加している。地域の防災訓練ではバケツリレーに参加する等、ほぼ目標を達成している。今年度は管理者の交代があったが、職員間のコミュニケーションが良く取れている。職員の提案で限られたスペースのホールで、動線を考慮したソファやテーブル配置、収納スペースの確保等の業務改善に繋がり、入居者との関係にも良い影響を与えている。理念の主旨に沿った、明るく楽しいホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホーム 階上ランチ)「ユニット名」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と事業所理念を掲げている。 事業所理念は毎年4月に見直しを行なっていましたが今年度は行なっていません。	今年度は前年度の理念を継続した。職員は理念をカードにして携帯している。理念の実践がもっと身近に感じられるよう、理念達成の行動目標を設定していきたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の会員になり地域の行事に参加させていただいています。地区の夏祭りでは、吹き流しを作成し、また学校行事への招待もあり参加させていただいています。	民生委員の橋渡しで町内会に加入し、町内一斉清掃活動にも参加している。地区の夏祭りには、ホームで入居者と一緒に作った七夕飾りを持参して参加している。歌や踊りのボランティアクラブの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学校の職場体験の受け入れを行なっています。 今年度も家族懇親会(芋煮会)の開催を予定しており地域の方々にもご参加いただきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しています。 事業所の活動や近況を報告し地域の方より地域行事の情報収集を行い地域包括支援センターの方には研修会の案内をいただいています。	奇数月の最終金曜日に年6回開催している。地域包括職員が毎回出席しているほか、民生委員や町内会長の参加がある。非常時の持ち出し品に毛布セットを追加すること等の提案があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が窓口となり入所状況を報告しています。運営推進会議に参加していただき情報交換を行なっています。	市主催の認知症介護実践教室やリハビリテーション、疥癬対策の研修会に参加している。市職員とは入居状況の報告や入居待ち情報や介護職員の採用や退職についても相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度のミーティングの際に勉強会を実施しています。 外部研修への参加を予定しています。	職員は年2回の身体拘束適正化に関する研修会で、身体拘束の内容と弊害について理解している。毎月の勉強会では特にスピーチロックにならないように、職員間で注意しあえる環境づくりに配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度のミーティングの際に勉強会を実施しています。 外部研修への参加を予定しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加を予定しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にサービス内容等を理解していただけるよう時間をかけて説明を行います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見交換をしやすいよう、ご家族が来所された際は近況報告を行う等のコミュニケーションを図っています。利用者、ご家族より意見、要望があった際はその都度、またはミーティングの際に話し合っています。	帰宅願望のある入居者の要望には、家族の協力を得て対応している。家族からの要望には体調管理や体重増加、運動不足の解消等が多く、階上小学校までの散歩や岩井崎での散策を取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際に業務の改善について話し合っています。	管理者は職員が話し易い環境づくりに留意している。職員提案で、入居者の相性や性格に合った席替えや交流スペースのソファの配置替えをした。希望休や有給休暇の取得、夜勤シフト等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の会話やミーティングから現状の把握に努めています。毎月、休日の希望を聞き取り、可能な範囲でシフトに組み込んでいます。また有給休暇が取得できるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修や外部研修に参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	気仙沼市介護サービス法人連絡協議会の名刺交換会や外部研修に参加した際に交流を図っています。勉強会や相互訪問は実施できていません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談受付後に管理者と計画作成担当が実態調査を行います。本人の意向を把握し、職員間で情報共有をします。 サービス開始前にホームの見学をお勧めしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後もご家族と職員と一緒に本人の生活を支えて行きたいという旨を伝え、時間をかけてご家族の意向を把握します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際は状況確認を行い、他事業所も含め、その方に必要な情報を提供します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、出来ないことを見極め、一緒に作業し一緒に行動することで本人との関係を深めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告や意見交換を行い、ご家族との信頼関係を大切にしています。 面会に来ることができないご家族には電話連絡し情報を共有しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブに出掛け、馴染みの場所に行き思い出を喚起します。 定期的に面会に来ていただけるようご家族にお願いしています。	家族の協力を得て自宅での食事会や居室での家族と食事するなどしている。孫や親戚に面会の依頼をして来訪してもらう。信仰している宗教を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して職員間で情報を共有し、必要時には職員が間に入りスムーズにコミュニケーションが取れるよう配慮します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に連絡しあえる関係になれるよう、本人、ご家族に関わっていきたいと思います。 相談があった際は今まで同様に支援して行きます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の言葉に耳を傾け思いや希望を受け止めるよう努めています。困難な方には家族に相談し検討します。	入居者の経歴や日々の暮らしの中の行動や話から、思いをくみ取っている。家事が得意な入居者を見て、自分もやりたいと言う入居者にはやってもらおう。その仕事域を侵さないように、職員は配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査や日々の生活の中でも情報収集を行い職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の様子や変化について記録し職員間で情報を共有しています。またバイタル測定を行い体調を確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングの際にカンファレンスを行い、また家族の意見を取り入れながらケアプランを作成しています。	介護計画は本人や家族の要望を取り入れて、本人の変化に応じて見直している。体重増加の入居者には散歩を増やすことや、難聴のある入居者は、孤立しないように職員が会話の橋渡しするよう計画書に入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や申し送りで情報を共有し意見交換を行なっています。 統一したケアが出来るよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望に応じ買い物や通院、床屋等の外出支援を行なっています。また地域のボランティアに協力いただき行事を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際に地域の情報収集を行い行事等には積極的に参加しています。また、小中学校の職場体験受け入れや幼稚園・保育所に慰問に来ていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族と事業所で協力して行なっています。事業所が対応した受診については記録し家族に報告しています。	全員がかかりつけ医を受診している。3名は職員が付き添いで受診している。その他は家族が同伴で受診している。職員が同行した時は家族に報告し、いずれの場合も受診結果を記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として訪問看護ステーションの訪問が週に1回あり健康チェックをいただいています。その際に状況報告や相談を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に行き、情報を収集します。早期退院に向け家族や病院と情報交換を行います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に重度化の指針を説明し意向を確認します。状態の変化に応じその都度に家族、主治医、事業所等で話し合いを行います。	入居時にホームが看取りに対応できる体制であることを明文化して、本人、家族に説明している。重度化が予想される場合は、段階的に関係者間で話し合い、家族の思いを確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを設置し手順等を定期的確認し急変時や事故の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、気仙沼消防署の立ち合いの下、避難訓練を実施しています。地域の方にも参加いただきアドバイスをいただいています。	夜間想定を含む、年2回の避難訓練を実施している。想定される災害に応じて避難場所も階上小学校とコンビニ駐車場が確保されている。地域住民には入居者の見守りを願っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある会話の中でも丁寧な言葉を使うよう気を付けています。特に入浴や排泄介助の際は自尊心を傷つけないよう配慮した声掛けを行なっています。	入居者の経歴や誇りに配慮して、苗字か名前に「さん付け」で声をかけている。居室への出入りはノックと声掛けで、本人の承諾を得ている。失禁時や失敗時には周囲に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から本人の意向や思いを汲み取るよう努めています。また、言葉での表現が困難な方は表情や様子等で気づけるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況に応じて柔軟に対応しています。散歩や買い物などの希望は出来るだけ対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴の際は季節や気温に合わせた服を相談しながら行なっています。馴染みの美容室や馴染みとなった床屋を利用されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のメニューなど利用者と相談し取り入れています。食事の準備や片付けなど出来ることは職員と一緒にしています。	献立の作成と調理は職員が行っており、食事内容については法人栄養士のアドバイスがある。季節毎に旬の食材を取り入れている。かつぱ寿司や市内のレストランでの外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や摂取量など一人ひとりに合わせて提供しています。また栄養バランスについてはデイサービスの調理師に相談しアドバイスをいただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や就寝時、食後に声掛けし歯磨きやうがいの声掛けを行なっています。自分では困難な方には支援を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄が行えるよう排泄チェック表を活用し、職員間で排泄パターンを共有して声掛けや誘導を行なっています。	職員は排泄チェック表による全員の排泄パターンを把握している。声掛けと誘導で入居者全員がトイレでの排泄をしている。夜間もオムツ使用者は無く、定期的な声掛けと誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽体操を行い必要な方にはトイレ時に腹部マッサージを実施しています。水分量が少ない方には本人が好む飲み物を提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を聞き時間帯を調整しています。それぞれに好みの湯音で入浴していただいています。	週2～3回の入浴をしている。毎日入浴を希望する入居者もいる。入居者に合わせて介助職員や時間帯を代えたり、季節に合わせた菖蒲湯や柚子湯、入浴剤等を替えて入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に合わせて就寝時間やお昼寝等の休息を促しています。室温は利用者に確認しながら調整を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変化があった際は主治医に相談し定期薬の変更等を行なっています。薬の変更があった際はその後の様子を記録し主治医に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かす家事手伝いやレクリエーションを提供しています。家族に相談しアドバイスをいただくこともあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩の支援を行なっています。日中は玄関は開錠しており敷地内を散歩される方もいます。また、家族の協力により外出される方もいます。	季節ごとに外出の年間行事を計画している。モーランド本吉の牧場体験や買い物、大島の亀山からの展望を楽しんでいる。日常的には近所のコンビニまでの散歩や買い物、岩井崎のドライブや散策を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で各利用者のお小遣いを管理しています。少額のお金を持ち職員と一緒に買い物に行く方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くに住んでいる家族より手紙が届きやり取りを行なっている方がいます。電話の希望があった際はご家族に繋いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは季節の飾り物を作って飾り季節を感じていただいています。また、写真を展示し家族の面会時の話題作りを行なっています。	ホールや廊下は天井が高く、天窓から差し込む明かりで開放感がある。テレビを囲むように置かれたソファは、入居者の動線が考慮されている。壁には季節感のある手作りのモミジの飾りが、入居者の外出時の記念写真と共に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所で過ごせるようテーブルやソファを配置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力していただき自宅で使っていた家具を持ち込んだり、位牌や家族の写真を置くなどしています。	ベッド、クローゼット、エアコン、換気扇、洗面台が備え付けである。家族写真やテレビ、茶筆筒、位牌等、入居者の馴染みの物を持ち込んでいる。壁面には入居者の塗り絵などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるよう動線を確保しています。居室の入り口には表札を掲示して自分の部屋、または他者の部屋が分かるようにしています。		